



学ぶこと 努力すること

校長 山崎 泰央

猛暑の夏を乗り越え、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。夏休みには郡や県などの水泳大会もあり、一人一人が努力の成果を発揮しました。それぞれの夏休みの学びや体験が2学期に生きてくるものと楽しみにしています。

さて、この夏休み、私も旅行をしたり家の仕事をしたりして、たくさんの学びがありました。1つ目は、三重県松阪市の「本居宣長記念館」で学んだことです。本居宣長は、江戸時代の国学者で、医師でもありました。宣長が成し遂げた偉業は、日本最古の歴史書『古事記』を、1000年後の江戸時代の人でも読めるようにしたことです。昼間は医者の仕事、夜は『古事記』解説の日々を重ね、注釈書『古事記伝』（全44冊）を35年の歳月をかけて書き上げたのです。私は、展示資料を見ながら、宣長の努力のすばらしさに驚嘆しました。『古事記』（写本）には、師から教わったことや自分の思いや考えが小さく丁寧な字でびっしり書き込まれていました。余白に書ききれない時には、紙を重ねて書き加えてありました。また、宣長が17歳の時に描いた日本地図にも、彼の日本に対する好奇心やこだわりが一杯つまっていました。宣長の「学ぶこと」への熱い思いや努力が、何百年の時を超えて歴史好きの私の心に衝撃を与えました。そして、「努力する大切さ」「学ぶ大切さ」について再認識させられました。

2つ目は、水田の「ヒエ」を取る作業に初めてチャレンジしたことです。高齢になった母親が水田に入るのが危なくなつたので、止むを得ず始めたことでした。大発生した「ヒエ」を目の前にしたとき、これを全て取り除くには何日かかるのだろうと呆然としました。連日の猛暑と闘いながらの大変な作業でしたが、やり続けると終わらないので、汗まみれ泥まみれになりながら頑張りました。そのうちやる気も出てきて、稲穂の揃ったきれいな田を見るのがうれしくなってきました。努力の大切さを感じ、学びの価値のある貴重な体験となりました。

私は、いつも、子どもたちに、友達と切磋琢磨しながら「努力すること」「学ぶこと」の喜びや大切さを味わってほしいと思っています。「なぜ勉強しないといけないの？」という子どもの言葉を聞くと、私が子どもの頃に、父親から言われていた言葉を思い出します。それは、「お金や物は泥棒が入ったり火事で焼けたりしてなくなることはあるけれど、学んだことはだれも奪うことはできない。だから、努力して学びなさい。」というものでした。小学校は、人としての基礎・基本を身につける大切な時期です。これからも、学ぶ習慣や努力する姿勢が大切だということを子どもたちに伝えていきます。

2学期も、職員みんなで知恵を出し合い力を合わせて子どもたち一人一人の学びの充実に努めていきますので、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いします。